

夏の余韻を残す暑さに包まれ、夜風にもまだ熱気を感じるこの頃。「世界陸上競技選手権大会 2025（東京）」のニュースは、私たちの関心を引きつけ、心を躍らせるとともに、明日への活力を与えてくれます。日本全国、そして世界から集うアスリートたちが競技を通して交流するその舞台の裏では、多くの理学療法士がサポートに尽力していることでしょう。こうした国際的なイベントは、まさに国の「今」を映す鏡です。記録やドラマ、勝利の歓喜を陰で支える理学療法士の姿は、私たちにとって誇らしい限りです。

さて、本号（第 16 巻第 2 号）では、計 8 編の論文を掲載いたしました。Honda らによる原著論文では、後天性脳損傷に対する短期介入の効果を検証しています。松本らは、独自に開発した弾性肘サポーターの有用性を運動力学的に明らかにしました。久保らは、2018 年と 2023 年のデータをもとに、5 歳児の体力水準の年次推移を検証しています。その他、2 編の症例報告に加え、報告、短報、資料をそれぞれ 1 編ずつ掲載しており、いずれもユニークで興味深い内容となっています。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

保健医療学雑誌では、今後も随時、皆さまからのご投稿をお待ちしております。本誌がさらなる発展を遂げるよう努めてまいりますので、引き続きご支援・ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

2025 年 10 月 1 日
保健医療学雑誌 副編集委員長
野村 卓生（関西医科大学）